



開発環境の構築

土屋 健

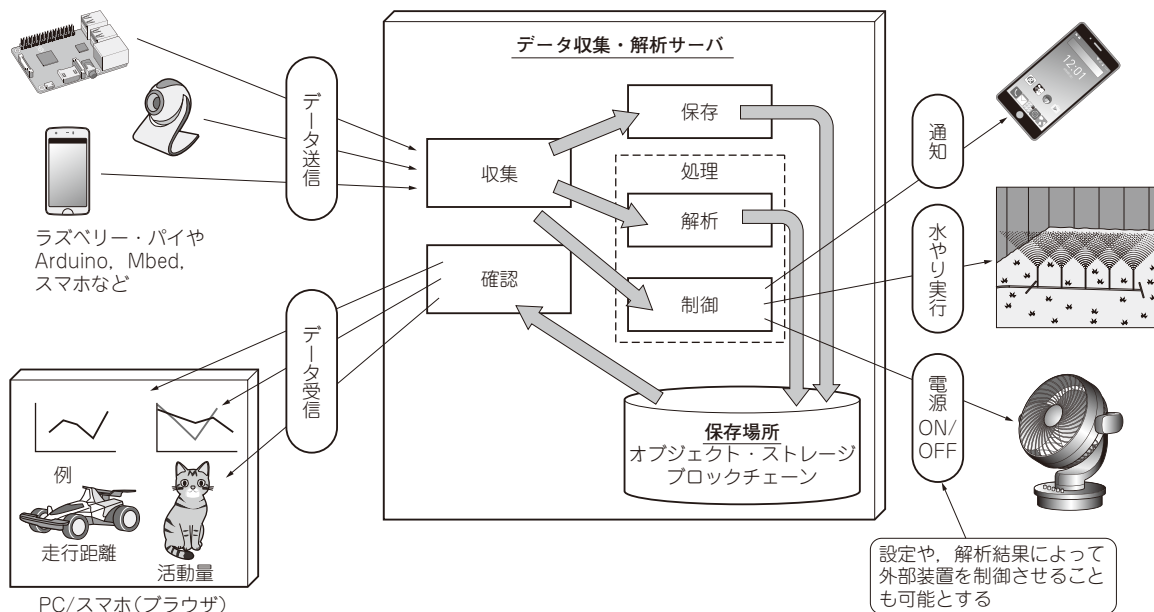


図1 つくるものの全体像

IoTの普及によってさまざまなデータが収集されるようになり、それらのデータを保存・管理するためのデータ・サーバが必要になっています。ここでは、センサ・データを保存/管理/可視化するデータ・サーバを作成します。

<第2部の構成>

- 第1章 開発環境の構築
- 第2章 データ・サーバの全体像
- 第3章 データを時系列で保存
- 第4章 保存したデータを取り出す
- 第5章 システム構成情報の管理
- 第6章 データ可視化画面/チャンネル管理画面
- 第7章 全体を組み合わせる動作確認

なお、各章のリストは本誌ウェブ・ページからダウンロードできます。各章タイトル横にあるQRコードまたはURLから参照してください。

自前データ・サーバのあらまし

● 自前で作る理由

既存のサービスを利用せずデータ・サーバを自前で作成する利点は何でしょうか。技術という側面では、

- IoTサービスを考えた場合に装置側だけでなく、サーバ側の処理や実装について知ることは装置側の開発にも役立つ知識が得られる
- 自分の欲しい機能を実装できるので、効率の良いサービスを作る

また、運用という側面では、

- 初期費用はかかるが運用費はかからない
- サービス終了といったリスクがない
- セキュリティの懸念が少ない

といったメリットが考えられます。